

# 台風8号の被害はありません。 高知のコシヒカリは順調に出穂を始めています

7/10に台風8号が高知沖を通過していきました。

ちょうどコシヒカリの出穂の時期と重なり心配しましたが、雨と風は明け方に強かっただけでその後はたいしたことありませんでした。倒伏や冠水した田んぼはなく、現時点で目で確認できる稲への被害はないように思われます。

ニュースでは台風に関係のないところでも大雨が降って被害が出ています。被害を受けられた皆様にはお見舞い申し上げます。そんななかですが高知では順調にコシヒカリの出穂が始まりました。

早稲米コシヒカリの産地である南国市後免の6/21~7/16までの気象データを見てみると

	降水量合計	平均気温	最高気温	最低気温	日照時間合計
2014年の6/21~6/30	55.5 mm	22.8℃	26.2℃	19.8℃	38 h
平年比	47%	-0.7℃	-0.8℃	-0.6℃	97%
2014年の7/1~7/16	195 mm	25.3℃	29℃	22℃	66.4 h
平年比	127%	+0.1℃	+0.1℃	±0℃	81%

データから見ると6月後半は気温はやや低め、7月になってからは暑さが続いているように感じていたが実は平年並み、降水量はトータルではほぼ平年並み、日照はやや少な目かという所です。台風以降はまとまった雨は降っていません。九州南部では梅雨明けしましたが、四国も梅雨明けは時間の問題のようです。収穫まであと一ヶ月少しですが、このまま順調に登熟して無事に収穫期を迎えたいものです。

【7/17 南国市小籠 穂が頭を垂れてきた西村昭夫さんのコシヒカリの田んぼ】



【7/17 香南市野市町 出穂が揃ってきた富家ライフファミリーの寺川さんのコシヒカリたんぼ】



【7/17 香南市香我美町 出穂が揃ってきた村上信一郎さんのコシヒカリのたんぼ】



# コシより一足早い南国そだちは黄色く色づいてきました。 棚田のヒノヒカリはブンケツを増やしている所です

【7/17 高知県南国市 武市忠雄さんの黄色く色づいてきた南国そだち】



南国そだちは高知県農業技術センターが新しく育成した(平成18年に高知県の推奨品種に指定)極早稲品種です。高知県の主力品種はコシヒカリですが、南国そだちはそれよりも7~10日程度収穫時期が早いです。極早稲米は早生水稲に比べ登熟期間が低温で経過するため、一般にアミロース含有率が高まり、食味が低下する傾向にあります。そこで南国そだちは低温登熟条件下でもアミロース含有率が低く、良食味となる極早生の新品種をということで開発されました。アミロース含有率は約15%と低く良食味です。高知県では平成19年から本格的に普及が始まりました。しかしこの年は長引いた梅雨による日照不足の影響もあって白未熟粒が多く期待されていた結果を残せませんでした。ですが結果が出なかったのはこの年だけで、以降は栽培管理技術も確立されてきたため、毎年期待にこたえる味と品質になっています。今年も高知では一足早く南国そだちの田んぼが黄色く色づいてきました。もうまもなくコシヒカリに先駆けて南国そだちの出荷がスタートします。

【7/17 高知県土佐町高須 ブンケツが増えてきて緑が鮮やかになってきた棚田】



平場の南国そだちは刈り取り間近ですが、ここ高知県土佐町の棚田では、現在中生品種のヒノヒカリや姫ごのみがブンケツを増やしている所です。

この土佐町の棚田は標高300~500mの山の斜面に広がっています。昼夜の寒暖差と清らかな山の清水のおかげで、昔から高知県では美味しいお米の取れる地域として知られています。田植えは5月の後半から6月にかけて行われ、お盆を過ぎて9月になるころ出穂期を迎えます。土佐町では土佐赤牛(褐毛和種高知系)を中心とした畜産も盛んです。そこで町では早くから堆肥センターを建てて、そこを中心にして畜産農家と耕種農家の連携(稲ワラは畜産に使い、排泄物は堆肥になって農地に還元される)による循環型農業を実践してきました。それだけではなく近年は、稲の栽培にニガリを使い、米のさらなる食味アップを目指しています。ニガリを使うと稲の根張りがよくなり、またニガリのミネラルが効くためお米の品質と食味も確実に上がっていると農家も手ごたえを感じています。

